

数理同窓会報

No. 9 (2015年8月1日)

九州大学大学院数理学府同窓会

<http://alumni.math.kyushu-u.ac.jp/>



West 1号館 A棟 10階からセンターゾーンを臨む
(撮影：今野拓也准教授)



BigOrange バス停方面から West 1号館を臨む
(撮影：九州大学／広報室学生スタッフ)



West 1号館（新理学部棟）完成予想図

川崎英文新会長のもとでの発展に期待します

私は学部学生時代から含めると45年間九州大学にお世話になって、平成20年3月に定年退職しました。小学校、中学校、高等学校でお世話になった年数と九州大学でお世話になった年数と比べると比較になりません。このことから会長を頼まれたとき、断れないという思いがあり、引き受けました。

私が退職してからの数理学府の変化は、伊都キャンパスへの移転、マス・フォア・インダストリ研究所（Institute of Mathematics for Industry）の発足、近々新しく建設される建物へ再度の移転等々、目覚ましいものがあります。私の住居は福岡市の東の境界近くにあり、数理学府のある伊都キャンパスは福岡市の西端にあります。気軽に数理学府を訪ねるには遠すぎる距離があります。退職して時間が経過するにつれて最近の数理学府の状況に益々疎くなっています。こうした状況と同窓会会員の幾人かの先輩、後輩、特別会員の方々の訃報にも接しました。報道によると男性の健康寿命（健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間）の平均値は71歳だと言われております。私自身今年1月に古稀を迎えた、身辺整理をしておきたいとの気持ちが強くあります。今まで実質的には数理学府同窓会を主に支えてこられた川崎英文教授に平成27年4月1日からの交代をお願いし認めて頂きました。

今後も川崎英文新会長のもとでの数理学府同窓会に、同窓会会員の皆様の支援をよろしくお願ひいたします。

平成27年4月

数理学府同窓会 前会長
九州大学名誉教授 風間英明

新任のご挨拶

この度、風間英明先生から会長の任を引き継がせて頂くことになりました。風間先生、7年間ありがとうございました。私も学生時代から九州大学に長くお世話になり、数年前から百周年史の編纂や学生の就職等に携わって参りました。これらを通して、同窓会会員の皆様のご厚情を身に染みて感じております。多大なるご支援に対しまして厚く御礼申し上げます。

さて、理学部が発足したのは1939年のことですが、発足当初から長く教鞭をとられたお一人が北川敏男先生です。私の恩師である古川長太先生は北川先生のご指導を受けられました。現在の学生から3代遡ると数学教室発足時に辿り着くことができます。一方、将来に目を向けてみると、5月に竣工した伊都キャンパスWest1号館に、数理学府は9月に再移転し、理学部全学科が再び一つ屋根の下で苦楽を共にすることになりました。昨年7月には金子昌信前学府長から原隆学府長の新体制に移行し、社会における大学の役割が問われる中、難しい舵取り役を務めておられます。同窓会の運営は有志の手で行われておりますが、財政的に厳しいものがございます。皆様には一層のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

平成27年4月

数理学府同窓会 新会長
九州大学教授 川崎英文

田中俊一先生を偲んで

株式会社システム・ジェイディー 取締役会長

伊達 博

私は先生との出会いは、九州大学理学部数学科4年生のときである。大学院に進学する際の講座説明会で、当時、先生が数理解析学講座の教授として、大阪大学から九州大学に着任なさり、大学院での研究内容の説明会で、先生の著書である

「KdV 方程式 — 非線形型数理物理入門」の紹介があり、非線形方程式への興味から進学を決意した。私は、先生が九州大学で指導する初めの大学院生で、「最適化」を研究テーマにして、先生の目に留まった新しい視点のモデル化と解法に関する論文を中心に、広い視野からご指導をいただいた。数理解析学は、「社会現象を数学でモデル化し、そこでの問題を解決する方法を体系立てて構築するもの」というのが先生の方針で、工学部の情報工学の講義にも参加する機会をいただいた。修士論文では、組合せ最適化問題とその解法についてまとめた。

修士課程を修了し、株式会社日立製作所日立研究所に入所し、半導体の設計・検査のための CAD ソフトウェアの開発を担当、引き続き、先生には、奨学寄附金という形で、半導体分野で現れる最適化問題を解決するためのご指導をいただいた。個人的にも、先生ご夫婦で、仲人をお引き受けいただき（写真は、1989年、私の結婚式で仲人をいただいたときのもの）、温かいお人柄で、公私ともに大変お世話になり、深く感謝している。私は、現在、会社を創業し、経営に携わっているが、今でも先生にご指導いただいたことが、論理的思考のベースになって



いる。

最後に、田中俊一先生のご冥福を心からお祈りして、この稿を終わらせていただく。

だて ひろし (1985年修士入学)

田中俊一先生のこと

横浜市立大学 教授 藤井 一幸

昨年の暮れ先生が亡くなられたというメールが櫻井幸一君から届いた。先生とは、ここ数年会っていなかったので、驚きと共に寂しさを禁じえなかつた。私にとって、先生は表現論の研究者であった。先生は、それから非線形方程式の研究を始められて、特に KdV 方程式の研究で知られるようになられた（阪大の伊達悦朗さんとの共同研究は世界的に有名）。今では、先生が表現論の研究者であったことを、知っている人は少なくなったと思う。

その先生が、教授として九大・数理解析講座に来られると聞いて、私は非常に喜んだのを覚えている。当時、私はトポロジーの助手であったが、既に数理物理の研究を始めていたからである。先生からいろいろ教えてもらえると期待した。それから私はトポロジー講座から数理解析講座の助手に移った。

ところが、である。先生が九大に赴任されたとき、私に対して「私は KdV 方程式の研究は既に止めて、数理情報の研究をしています」と言わされた。「え、そんな！」であった。先生の興味は多様で、一定の場所にいることを好まない性格だったと思う。

九大時代は先生と、よく飲みに行ったものである（確か、箱崎の喜楽？）。そのときいつも櫻井君がいたように覚えている。その後、私は、九州大学から横浜市立大学に移ったので、それ以降の先生のこととは残念ながら知らない（何かノートか本を送ってもらったことがあったが、今は手元にない）。

田中俊一先生のご冥福を祈ります。

ふじい かずゆき (1975年修士入学)

学府長時代を振り返って

前数理学府長 金子 昌信

学府長時代を振り返って何か文章を、ということでお引き受けしたものの、私には特に誇れるような「業績」があるわけでもなし、苦労話などは書く方も読む方も気が滅入ってくるだけだろう、ということで、さて困りました。それに、実はこの4月からの半年間、「サバティカル」という研究休暇を頂いており、現在ハワイ大学に滞在中、この文章も大学の、常に微風が通り抜けて気持ちよいオフィスの中で書いておりまして、学府長時代というものがはるか遠い昔のように思えてきます。

私は2010年の7月16日より2014年の7月15日まで、数理学研究院長と数理学府長を務めました。二期四年です。理学部数学科、数理学研究院・学府が伊都キャンパスに移転してきたのは2009年の9月ですので、私の任期は新しい伊都キャンパスで始まっています。2011年4月に数理学研究院が分離改組され、マスフォアインダストリ(MI)研究所が設立されましたが、数理学府は両教員組織（のちに基幹教育院も）が一体となって教育に関わる従来通りの大学院教育組織としてそのまま続いている、数理学研究院長が数理学府長を務めるというルールの下、二つの長を4年間兼務させて顶いた、ということになります。

MI研究所の設立は任期中の最も大きな出来事と言つてよいと思いますが、実質的には若山正人前研究院長が主導され実現したもので、更には中尾充宏前々研究院長時代の21世紀COEプログラムにさかのぼる布石の段階があり、私自身は、線路も引かれて行き先も決まっている電車を運転していただけ、と言えましょうか。2011年と言えば3月に東日本大震災が発生し（地震発生時は研究院長室にいて微かな揺れを感じました）、そののち半年か一年か、しばらくは一種異様な空気の中で何事も進めていた

ような、そんな印象があります。その翌年の2012年秋に、台風が接近するなか、日本数学会の秋季総合分科会を伊都キャンパスで開催したのも、今や懐かしい思い出です。退官された吉田正章さんが名大会委員長ぶりを發揮されていました。

研究院長や学府長を務めていて一番困ったのは、学会の折もそうでしたが、いろいろな機会に挨拶をせねばならないことです。数学の講演はさすがに場数を踏んだ分、以前よりはましまですが、それでも未だに緊張するのですから、何かの挨拶で皆の前に立つたびに、結婚式の主賓挨拶でもするような気分でときどきしておりました。会議（特に教授会）の主催も同様、毎回緊張の連続でありまして、それでも四年間、たいした病気もせずに無事穴をあけることなく務められたのは、事務の方々など周りの方の支えがあってのことと感謝せずにはおられません。

これは長になったおかげかなと思うことの一つに、多分大方の皆さんのが笑を買うばかりでしょうが、若い頃父から手ほどきを受けたゴルフをまた定期的に出来る機会を得た、ということがあります。これは一種の偶然であります、ある日有川前総長に飲みに連れて行ってもらい四方山話をしておりましたとき、偶々話がゴルフのことになり、私も以前オハイオ大学に一ヶ月行っていた折りに向こうの先生方とゴルフをしたことがある、と言いますと、何だ君ゴルフをやるのか、ならば九大教授ゴルフの会(PGA会)というのがあるから入りなさい、と言われ、コンペに（半ば強制）参加することになりました。色々な学部の方がその会に入つておられますが、工学部のお好きな先生が、その後ときどき誘つて下さいます。私は20代最後の2年半、両親と同居していたとき「ゴルフ中毒」と言ってよい父に連れられ、また高校時代の同級生と、ときどきやつたものでしたが、九州に来ると仲間もおらず、本当にたまに、帰省の折など年に一度くらいやるだけでした。今まで、50代も半ばになって山登りも減りやらなくなつた運動不足の私には、うまい具合の役

得といいましょうか、楽しい趣味が出来ました。

はるか遠い昔、と最初に書きましたが、こうやって書いておりますとやはりいろいろなことが思い出されます。あれはあの判断でよかったのだろうか、ということもいくつかあります。私の着任時に、それまで理学研究院長を務めておられた宮原先生から、研究も大事だと思うが、気をつけないと院長職も研究も共に中途半端なことになってしまう、と言われました。私はまさにその忠言通りの中途半端な研究院長であったなど、今にして思います。学生、教員、事務の皆さんに多々迷惑をかけてしまったのではないか、けれどもそれが私の精一杯でした、どうぞご勘弁を、というのが今の正直な気持ちです。四年間どうも有り難うございました。

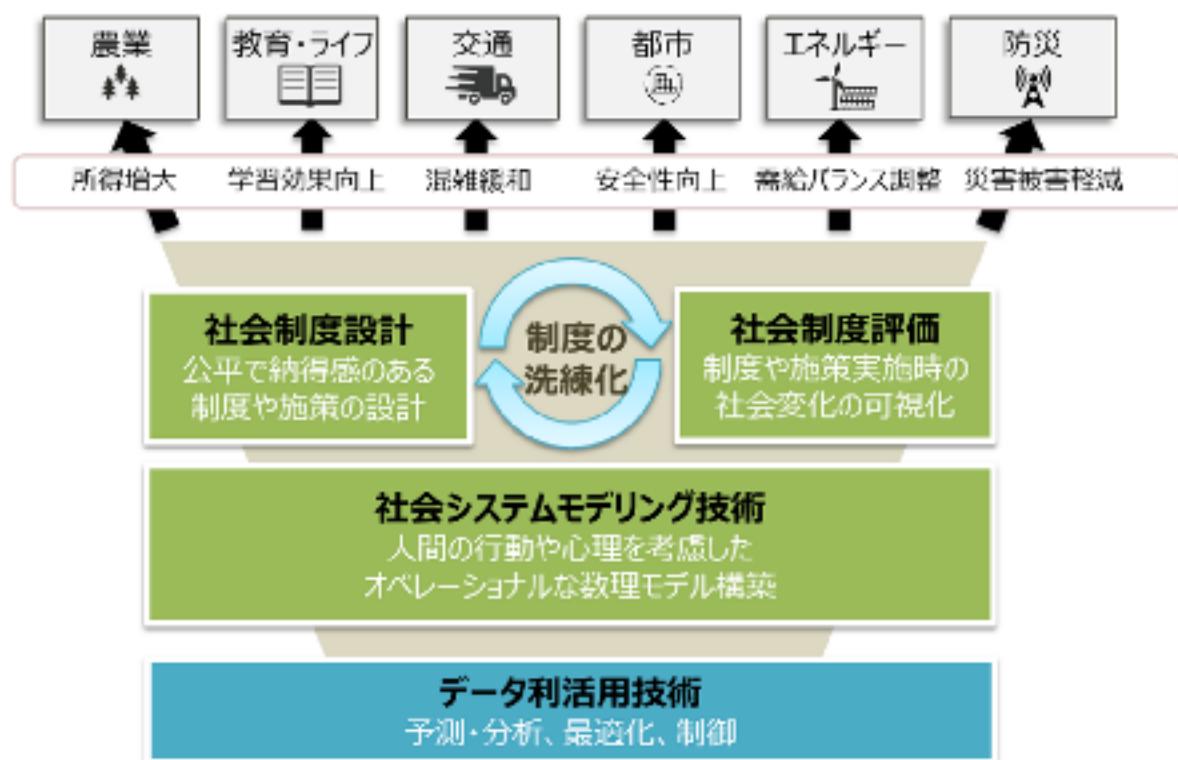
かねこ まさのぶ（数理学研究院・教授）

人の心理も考慮して数学で社会システムをデザインする

マス・フォア・インダストリ研究所 吉良 知文

私は2012年3月に本学大学院数理学府の博士後期課程を修了した後、中央大学、秋田県立大学（いずれもポスドク）、東北大学（専任講師）を経て、IMI富士通ソーシャル数理共同研究部門（以下、富士通部門）の設置に伴い、2014年9月に准教授として母校に戻ることができました。

近年、社会的課題を解決するための制度や施策の設計において、様々なデータを用いた分析・最適化・制御といった数理技術の活用への期待が高まっています。しかし、全ての利害関係者にとって公平で納得性の高い社会の仕組み（社会システム）をデザインすることは一般には難しく、既存のデータ利活用技術だけでは限界があります。富士通部門では人間の行動や心理をモデル化し、より広範な社会的課題を適切に解決するための数理技術の開発とその社会実践に取り組んでいます。社会的課題を発掘するためのヒアリング調査など、フィールドワークを多用している点も特徴です。数学が貢献できそうな社会的課題をお持ちの同窓会員の皆様、是非ともご教示ください。



余談ですが、先日、学生時代にブラジリアン柔術（グレイシー柔術）を教わった泊憲史先生（バラエストラ博多）から「数学について教えてほしい」と思いもよらないメールが届きました。『ゴング格闘技』2013年5月号に掲載された記事“ゲーム理論、フラクタル、カオス理論—世界最強チームの智将が追及する応用数学、哲学としての MMA。”（全5頁）に関する内容でした。「グレッグ・ジャクソンのゲーム理論」と呼ばれ、格闘技の世界で数学が一大旋風を巻き起こしているのだそうです。ちなみに、MMAは数理学府のMMAコースを連想しますが、ここでは Mixed Martial Arts（総合格闘技）の略です。グレッグ・ジャクソンは、近年の総合格闘技界で最強軍団と称される Jackson's Submission Fighting（米国）を率いる名トレーナーですが、実は彼自身には格闘技の経験がなく、展開形ゲームを用いて試合展開を予測・分析し、所属選手に適切な助言をおこなっているそうです。展開形ゲームは、手番が回ってくる度に意思決定が必要な動的なゲームを扱う枠組みで、これを基礎としたコンピュータ将棋は既にプロ棋士のトップレベルを破る成果を出しています（機械学習の貢献も大きい）。しかし、格闘技に応用されたというのは大変に驚きです。私は学生時代に岩本誠一先生から動的計画法を、川崎英文先生からゲーム理論を学びましたが、これら二つを掛け合わせたものが他でもない展開形ゲームです。時間が許せば、芦原空手部の後輩たちの練習に顔をだし、グレッグ・ジャクソンのゲーム理論について実証研究してみたいと思います。

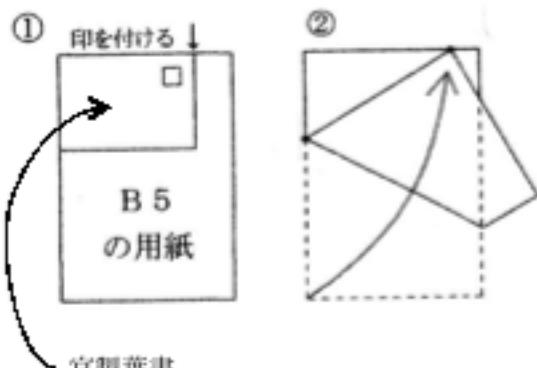
きら あきふみ（2009年修士入学）

用紙の三つ折り法

久留米工業高等専門学校 松田 康雄

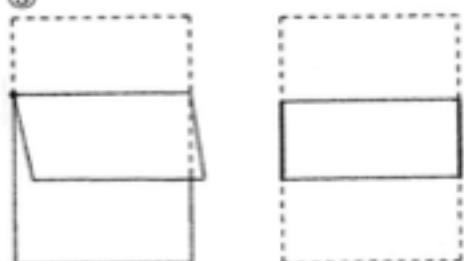
官製葉書（100mm×148mm）を利用したB5、A4版の用紙の三つ折り法を紹介します。

1. B5の用紙

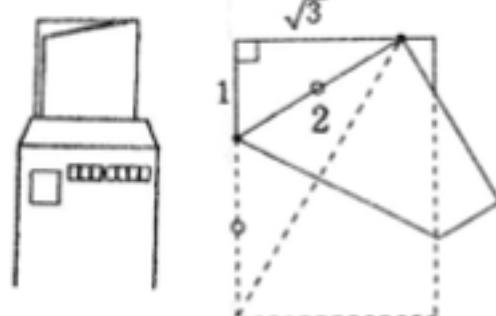


官製葉書

③

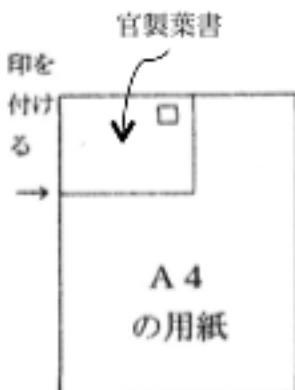


④



$$(B5 \text{ の縦の長さ } 257\text{mm}) \times \frac{1}{\sqrt{3}} = 148\text{mm} = (\text{葉書の縦の長さ})$$

2. A4の用紙



官製葉書
A4
の用紙

$$(A4 \text{ の縦の長さ } 297\text{mm}) \times \frac{1}{3} = 99\text{mm} = (\text{葉書の横の長さ})$$

多少の誤差はご愛嬌ということでお試し頂ければ幸いです。

まつだ やすお（1979年修士入学）

○できごと

（2013/07/01～2015/04/30）

◇九州大学リーディングプログラムが始動

数理学分野の九州大学リーディングプログラム「キーテクノロジーを牽引する数学博士養成プログラム」の募集が2014年4月から開始されました。

◇原隆教授が新学府長に

2014年7月16日から原隆教授（数理学研究院）が数理学研究院長兼数理学府長に就任されました。前学府長は金子昌信教授です。

◇福本康秀教授がM1研究所長に

2014年10月1日から福本康秀教授（マス・フォア・インダストリ研究所）がマス・フォア・インダストリ研究所長に就任されました。前所長は若山正人教授です。

◇若山正人教授が理事・副学長に

2014年10月1日から若山正人教授（マス・フォア・インダストリ研究所）が九州大学理事・副学長に就任されました。

◇辻井正人教授、日本数学会賞秋季賞を受賞

辻井正人教授（数理学研究院）が2013年度日本数学会賞秋季賞を受賞しました。受賞業績は《微分可能力学系のエルゴード理論における関数解析的手法》（英文：Functional analytic methods in ergodic theory of differentiable dynamical systems）です。日本数学会2013年度秋季総合分科会に於て、以下の次第で授賞式が行われました。

日時：2013年9月25日（水）15:00～15:30

場所：ひめぎんホール サブホール

◇綿谷安男教授、日本数学会解析学賞を受賞

綿谷安男教授（数理学研究院）が日本数学会2013年度（第12回）解析学賞を受賞しました。受賞業

績は《多角的な視点に基づく作用素環論の研究とその応用》（英文：Research of operator algebra from the multidirectional viewpoint and its applications）です。2013年9月26日、日本数学会2013年度秋季総合分科会に於て授賞式が行われました。

◇長田博文教授、日本数学会解析学賞を受賞

長田博文教授（数理学研究院）が日本数学会2014年度（第13回）解析学賞を受賞しました。受賞業績は《無限粒子系の確率力学と幾何》（英文：Stochastic dynamics and geometry for infinite particle systems）です。2014年9月27日、日本数学会2014年度秋季総合分科会に於て、授賞式が行われました。

◇増田弘毅准教授、日本統計学会研究業績賞を受賞

増田弘毅准教授（マス・フォア・インダストリ研究所）が2014年度第8回日本統計学会研究業績賞を受賞しました。受賞業績は《ジャンプ型確率過程モデルの統計解析に関する研究》です。

◇中尾充宏名誉教授、文部科学大臣表彰を受賞

中尾充宏名誉教授（数理学研究院、現佐世保工業高等専門学校・校長）が2014年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞（研究部門）を受賞しました。受賞業績は《偏微分方程式の解に対する精度保証付き数値計算法の研究》です。

◇安生健一（OLMデジタル）さんと落合啓之教授、文部科学大臣表彰を受賞

ポケットモンスターの映像制作会社として知られるOLMデジタル取締役の安生健一（本会正会員）さんと落合啓之教授（マス・フォア・インダストリ研究所）らの研究チームが2014年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞（研究部門）を受賞しました。受賞業績は《CG映像制作のための演出技術の数理モデルに関する研究》です。

◇高木剛教授、日本学術振興会賞を受賞

高木剛教授（マス・フォア・インダストリ研究所）が、第11回日本学術振興会賞を受賞しました。受賞業績は《公開鍵暗号の安全性評価と高速実装に関する研究》です。

◇高木剛教授、電子情報通信学会業績賞を受賞

高木剛教授(マス・フォア・インダストリ研究所)らの研究チームが、平成25年度電子情報通信学会業績賞を受賞しました。受賞業績は《暗号解読の世界記録を達成し、次世代暗号の安全性を確立する先駆的研究》です。

◇高木剛教授と林卓也学術研究員、ドコモ・モバイル・サイエンス賞を受賞

高木剛教授(マス・フォア・インダストリ研究所)と林卓也学術研究員(マス・フォア・インダストリ研究所)らの研究チームが、第12回ドコモ・モバイル・サイエンス賞(先端技術部門)を受賞しました。受賞業績は《秘匿データを利活用できる次世代暗号技術の実用化への道を開拓する先駆的研究》です。

◇藤澤克樹教授のチームが世界2位と世界1位に

藤澤克樹教授(マス・フォア・インダストリ研究所)らの研究チームの開発したソフトウェアがビッグデータ処理性能試験 Graph500, Green Graph500で各々世界2位と1位を達成したことが2014年11月18日(日本時間11月19日)国際会議「ACM/IEEE Supercomputing Conference 2014」(ニューオリンズ、アメリカ)で発表されました。

◇手塚隼教授、the 2013 Best Paper Awardを受賞

手塚隼教授(マス・フォア・インダストリ研究所)がthe 2013 Best Paper Award, Journal of Complexityを受賞しました。受賞論文は《On the discrepancy of generalized Niederreiter sequences》です。

◇鷲見拓哉(修士2年)さん、学生論文賞を受賞

鷲見拓哉(当時本学府修士2年)さんがCSS2013学生論文賞を受賞しました。受賞対象は、情報処理学会コンピュータセキュリティシンポジウム(2013年10月)での、論文集に掲載されかつその学生が懇親会に参加する論文「Web Workersを用いた多変数公開鍵暗号 Rainbow の並列実装」です。

◇田上大助准教授と井元佑介(博士1年)さん、最優秀ポスター賞を受賞

田上大助准教授(マス・フォア・インダストリ研究

所)と井元佑介(当時本学府博士1年)さんが2013年9月10日、日本応用数理学会2013年度年会に於いて、最優秀ポスター賞を受賞しました。受賞ポスターの題目は《粒子法の近似作用素に対する打ち切り誤差解析》です。

◇ホームカミングデー&アラムナイフェス2015

伊都キャンパス誕生10周年記念セレモニーが開催されます。

日時: 平成27年10月17日(土) 10:30 ~ 16:00

会場: 伊都キャンパス 椎木講堂等

主催: 九州大学、九州大学福岡同窓会

○大学院数理学府担当教員の異動

2013年度

(2013/07/01 ~ 2014/04/30)

転入等 IMI 助教・Trinh Khan Duy (新任)

数理助教・関行宏 (新任)

昇任 IMI 准教授・千葉逸人 (数理から)

転出等 IMI 教授・柴伸一郎 (北海道大学へ)

数理准教授・百武弘登 (防衛大学へ)

数理助教・井口修一 (福岡工業大学へ)

異動 (数理学府を担当する基幹教育院所属教員)

基幹教育院教授・高瀬正仁 (IMIから)

2014年度

(2014/04/01 ~ 2015/03/31)

転入等 IMI 教授・藤澤克樹 (中央大学から)

数理助教・横山俊一 (新任)

IMI 准教授・吉良知文 (新任)

IMI 助教・Triadis Dimetre (オーストラリア分室・新任)

転出等 数理助教・中村徹 (熊本大学へ)

数理助教・本多正平 (東北大大学へ)

数理助教・山名俊介 (京都大学へ)

数理准教授・水町徹 (広島大学へ)

IMI 准教授・平岡裕章 (東北大大学へ)

2015年度

(2015/04/01 ~ 2015/04/30)

転入等 IMI 准教授・安田雅哉 (富士通研究所から)

○同窓会だより

◇ 同窓会会計報告（2012.5.1～2013.4.30）

取入		支出	
事項	金額(円)	事項	金額(円)
前年度繰越金	2,049,270	会報作成費、郵送料	275,155
新入会費	300,000	住所調査はがき返信郵送料	12,730
寄附	418,000	特別事業(就職セミナー)	20,000
預金利息	121	幹事会	6,300
		翌年度繰越	2,453,206
収入合計	2,767,391	支出合計	2,767,391

◇ 同窓会会計報告（2013.5.1～2014.4.30）

取入		支出	
事項	金額(円)	事項	金額(円)
前年度繰越金	2,453,206	会報作成費、郵送料	312,855
新入会費	230,000	住所調査はがき返信郵送料	13,490
寄附	417,000	特別事業(就職セミナー)	20,000
預金利息	206	翌年度繰越	2,754,067
収入合計	3,100,412	支出合計	3,100,412

◇ 同窓会活動報告

- 2014年 9月 名簿 No.7 発行
2015年 7月 15日 第24回常務幹事会
2015年 8月 会報 No.9 発行

◇ 同窓会役員

- 名誉会長：原 隆
会長：川崎英文
庶務幹事：大津 幸男
会計幹事：高田 敏恵
編集幹事：岩瀬 則夫、村川 秀樹
学内幹事：前園 宜彦、角 俊雄、高瀬 正仁、渡部 善隆、松井 秀俊、渋田 敬史、横山 俊一

院生幹事：工藤 桃成、櫻本 翔太

会計監査：溝口 佳寛、植田 好道

学外幹事：岩元 隆、大黒 隆、四宮 光文、橋本 弘治、関剛、平板 貢、栗林 壮太郎

○寄付して頂いた方（順不同・敬称略）

(2013.5.1～2014.4.30)

山口富男、平山守、張田珠潮、白石俊輔、日浦毅、吉田守、中尾慎宏、中村俊哉、南正義、田中義朗、繁木伸孝、佐藤坦、辻久美子、平下幸男、国場敦夫、安岡孝司、風間英明、元山善一、吉永正和、清田武秀、中坊滋一、安田正實、中原徹、今井昭、東浩二郎、木村憲二、木村友紀、鈴木昌和、山本慶太郎、栗山憲、井山秀一、皆本晃弥、安生健一、田川正二郎、中尾充宏、有川節夫、池田信行、松永弘道、田口龍治、元田康夫、原田新也、棚次奎介、井上浩一、南部徳盛、鶯尾泰俊、渡辺宏、丸山祐造、井上順子、四宮光文、濱田英隆、中尾寿康、佐伯修、河原紀彦、岡田幸治、西原賢、木本一史・知子、関剛、野瀬敏洋、大浦学、井川宏幸、金子昌信、若山正人、轟寿男、中國信孝、谷山泰子、上原明寿、大貝聖子、小川奏子、田中靖子、柴田英企、小池正夫、内藤淳、長郷文和、高田敏恵、富崎松代、石川眞昭、斎藤登、宗政昭弘、岡本育久、平谷武則、古賀孝行、長久武、松本宏二郎、中木達幸（ご家族）、矢ヶ部巖、新関章三、佐藤優子、白井将博、松田康雄、館野有美、高山晴子、原本和夫、田淵大樹、木下健志、神田智弘、近藤光浩、丹下稜斗、森山卓、匹田敦子、黒木諒、青山遼、長田俊耐、松嶋聰昭、弓場彰文、中村拓也、古賀孝史、上祐英樹、濱村康平、櫻井ふみ、小山宏次郎、坂田実加、中原強、藤高聖哉、和田啓吾、高根沢悟、三田悟嗣、松尾拓哉、Cid Armando Isaac Reyes Bustos

○卒業生の進路

2014年3月

◇ 修士課程	★ 教職 5名
★ 進学（博士後期課程）10名	公立（鹿児島、神戸）
九大数理（8名）	私立（福岡、長崎）
九大工（1名）	★ 公務員 2名
北大理（1名）	福岡市役所
★ 教職 5名	鳥取県庁
県立（福岡、広島、長崎）	★ 企業 19名
私立（福岡）	(株) ミクロ情報サービス、(株) ぶろべら、フリーピット株式会社、新日鐵住金ソリューションズ株式会社、富士通株式会社、日本システムソフトウェア株式会社、ヒューマンテクノシステム、日本電信電話株式会社、FAE、(株) インターネットイニシアチブ、(株) スリーエイ・システム、リクルートホールディングス、(株) Cygames、福岡銀行、セントラルソフト、東海東京証券、株式会社インフォセンス
★ 企業 25名	★ その他 2名
伊藤忠商事株式会社、インターネット・ビデオ・ジャパン株式会社、鹿児島銀行、(株) MJC、株式会社合人社計画研究所、株式会社終ソフト開発、株式会社日立製作所、株式会社福岡銀行、株式会社宮崎銀行、新日鐵住金ソリューションズ株式会社、JM テクノロジー株式会社、セントラルソフト株式会社、ソフトウェアビジョン（株）、独立行政法人情報処理推進機構、ナビタイムジャパン、西日本電信電話株式会社、日本電信電話株式会社 NTT 研究所、日本電気株式会社、福岡コンピュータサービス株式会社、富士通株式会社、三井住友信託銀行株式会社、三菱 UFJ 信託銀行	NPO 法人吉里吉里国、プロボクサー
◇ 博士課程	◇ 博士課程
★ 研究職 10名	★ 研究職 9名
西南科技大学助教	フィリピン大学助教
学振特別研究員	学振特別研究員（ISIT）
九州大学博士研究員	九州大学学術研究員
★ 教職 2名	九州大学博士研究員
筑紫女学園	★ 教職 1名
小山工業高等専門学校	久留米工業高等専門学校
★ 企業への就職 4名	★ 企業への就職 3名
㈱富士通研究所（東京都）	東芝電子エンジニアリング（神奈川県）
株式会社日立製作所（東京都）	三菱電機（東京都）
ユニティ・ソフト株式会社（福岡市）	株式会社とめ研究所（京都府）

○ 数理同窓会ホームページについて

数理同窓会：<http://alumni.math.kyushu-u.ac.jp/>

に数理同窓会ホームページ（HP）を公開中です。過去の同窓会報の PDF ファイルが置いてあります。会報中の写真や図はカラーでご覧頂けます。HP の会員専用のページには、パスワードによるログ

クをかけています。パスワードはホームページ上でも確認できますが、ユーザ名：alumni パスワード：20150801です。予告なく変更する場合もあるかと思いますが、その際はご容赦願います。数理同窓会ホームページの内容充実に関してご意見等ありましたら、編集幹事までお気軽にご連絡ください。

編集幹事：alumni-editor@math.kyushu-u.ac.jp

●編集後記

□ 昨年まで院生会長を務めました。会長という大層な名の割に大したことでも出来なかったような気がします。ただ、校舎移転の前年ということで移転の為の業務を少々こなし、多少なりとも九州大学へ寄与出来たのではないかと思っております。とうとう今秋には校舎移転が始まりますが、移転と共に自分自身の気持ちも入れ直して伊都キャンパスでの研究生生活に精進していくこうと思います。

えのもと しょうた（2014年度院生会長 博士2年）

□ 九大数理同窓会の皆様、日頃より御愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。御陰様で、充実した研究生生活を送ることが出来ております。九大数理の学生であるという自覚と誇りを持って、今後も精進していきます。引き続きお力添えをいただきますよう、お願い申し上げます。九大数理の学生を代表してのご挨拶とさせていただきます。

くどう ももなり（2015年度院生会長 博士1年）

□ いよいよ10月より新館での活動が始まります。それに先立ち、先日内覧に行ってきました。表紙左上の写真は、新館の広いガラス張りの部屋からの眺めです。ここからは、今津湾をはさみ、福岡タワーなど町の中心部も見えます。この部屋は学生が自習できるスペースとなる予定です。こうしたゆったりした環境で後輩達が勉学に励み、成長していくことを楽しみにしています。

むらかわ ひでき（編集幹事）

□ 本年始めてから、田中俊一先生と三苦至先生の訃報に相次いで接しました。院生時代に時折二階の田中先生の研究室脇のセミナー室にお邪魔しては博識な先生のお話を聞くのは本当に楽しみでした。トポロジー金曜セミナーで講演されたのは、表現論でもKdV方程式でも数理情報ではなく、ロボットアームの配置空間の話でした。また教養部時代に時間割委員を仰せつかって電話で非常勤を探していた折り、三苦さんに快く引き受け頂いてなんとかなったのも懐かしい思い出です。六本松の談話室に三苦節が響いて、楽しく時間が流れ行ったように思います。お二人のご冥福をお祈りいたします。

田中先生とは藤井一幸隊長と同様に親しかったと聞く、櫻井幸一さん（現本学大学院システム情報科学研究院教授）から田中先生の表現論に関する著作資料についての情報を下記の様に頂いています。

[1] 学位論文（大阪大学）「ある種の2次行列群の既約ユニタリ表現について」昭和42年6月12日

[2] 「Self-dualな体上のSL(2)群の既約ユニタリ表現の構成法について」数学19(4), pp. 225-231

[3] 「保型形式と表現論」数学19(4), pp. 239-251

[1] については http://ir.library.osaka-u.ac.jp/dspace/bitstream/11094/29490/1/01251_要旨.pdf に、[2], [3] については <http://mathsoc.jp/publication/dbase/sugaku/article007.html> に資料が公開されています。

いわせ のりお（編集幹事）

数理同窓会報 No. 9

2015年8月1日



発行：九州大学大学院数理学府同窓会
〒819-0395 福岡市西区元岡744
九州大学 大学院 数理学研究院内

↑↑ alumni@math.kyushu-u.ac.jp (e-mail)

社会福祉法人

Typeset by Xe^{La}T_EX

印刷・発送：福岡コロニー